

島根県におけるノレンコウモリ (*Myotis bombinus*) の再確認

安藤 誠也*

Reconfirmation of *Myotis bombinus* in Shimane Prefecture, Japan

Seiya Ando*

1. はじめに

ノレンコウモリは国のレッドリストにおいて、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている (環境省 2020)。島根県においては1980～1990年代にかけて大田市の隧道で毎年1～5頭の利用が確認されてきたが、1998年に隧道が改修されて以降は不明となっていた (大畑 2006; 島根県 2014)。また、邑南町の久喜銀山遺跡においても2001年に撮影されたノレンコウモリの母子集団が報告されている (桑原・奥田 2002)。このうち、前者は島根県立三瓶自然館に4個体の標本が保存され、1988年に採取された液浸標本 (SNMS-Ma160, SNMS-Ma161, SNMS-Ma162)、1992年に採取された仮剥製 (SNMS-Ma186) があり、後者は写真撮影のみとなっている。このような状況からしまねレッドデータブックにおいては情報不足 (DD)、とされている (島根県 2014)。

筆者は2025年5月に県中部の隧道において、ノレンコウモリの死体を採取、標本化した。これは島根県における本種の標本を伴う記録として33年ぶりのものとなるため報告する。また、本報告に用いた学名や和名は世界哺乳類標準和名リスト (川田ほか2018) に従った。

2. 採取個体の種同定・計測

1) 採取年月日 2025年5月1日

2) 種の同定

本個体の体毛は背面が灰褐色 (図1) で、腹面は白っぽい淡色である。また、耳介、耳珠ともに細長く、特に耳珠は尖っていて長さは9mm以上あり、耳介の半分以上ある (図2)。側膜は後足の外側指の基部に付き

(図3)、尾端周辺の尾膜後縁に細毛が列生している (船越, 2023) (図4) ことからノレンコウモリと同定した。また、体重の測定はデジタル計量器 (タニタ, KP104) を、微細なスケールの計測にはデバイダー (シンワ, A製図用 115mm) を用いた。単位は mm とし、計測部位は前田 (2005) の方法に基づいた。本個体の計測値を以下に示す。

性 (Sex) : オス (Male)

年齢 (Age) : 成獣 (Adult)

※中手骨の骨端は十分骨化

体重 (Body weight) : 6.2g

前腕長 (FAL) : 40.1 (R), 40.1 (L)

頭胴長 (HBL) : 47.5

尾長 (Tail length) : 43.5

下腿長 (Tibia length) : 18.0 (R), 18.0 (L)

耳介長 (Ear length) : 16.0 (R), 16.0 (L)

耳介幅 (Ear width) : 6.0 (R), 6.0 (L)

耳珠長 (Tragus length) : 10.5 (R), 10.5 (L)

耳珠幅 (Tragus width) : 1.6 (R), 1.6 (L)

後足長爪あり (HFLcu) : 10.0 (R), 10.0 (L)

後足長爪なし (HFLsu) : 9.0 (R), 9.0 (L)

陰茎長 (Penis length) : 5.5

頭骨全長 (GL) : 15.8

頭骨基底全長 (CBL) : 14.7

上顎歯列長 - 切歯～白歯 (UTL, i-m3) : 7.4

上顎歯列長 - 犬歯～白歯 (UTL, c-m3) : 5.6

吻幅 (RW) : 3.5

頬骨弓幅 (ZW) : 9.2

白歯間幅 (UMW) : 6.0

乳様突起間幅 (MtdW) : 8.0

脳函幅 (BCW) : 7.8

脳函高 (BCH) : 6.4

吻長 (RL) : 6.1

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane 694-0003, Japan

脳函長 (BL) : 9.7

※標本保管場所：島根県立三瓶自然館（仮剥製，頭骨，
軟体部は無水アルコールに液浸）

3. 周辺の環境

本個体が採取された場所は島根県大田市にある隧道内であるが，詳細な場所については絶滅危惧種であることから公表しないものとする．採取地点は標高約400mであり，周辺環境は里山環境である．周囲の山地にはスギやヒノキの人工林や，落葉広葉樹からなる二次林が見られる．

謝 辞

本稿を執筆するにあたり，島根県立三瓶自然館の井上雅仁氏，三島秀夫氏には調査にご協力を頂きました．この場を借りてお礼申し上げます．

引用文献

- 船越公威. 2023. ノレンコウモリ. 識別図鑑 日本のコウモリ (コウモリの会, 編: 佐野 明・福井 大, 監修), pp. 164-166. 文一総合出版, 東京.
- 川田伸一郎・岩佐真宏・福井 大・新宅勇太・天野雅男・下稲葉さやか・樽 創・姉崎智子・横畑泰志. 2018. 世界哺乳類標準和名目録. 哺乳類科学58 (別冊) : 1-53.
- 環境省. 2020. 環境省レッドリスト2020. 別添資料3[哺乳類]. p.3.
- 桑原一司・奥田雅史. 2002. 島根県瑞穂町におけるコウモリの越冬洞と繁殖洞. 高原の自然史7:59-83.
- 前田喜四雄. 2005. 日本産翼手目 (コウモリ) 検索表. 日本の哺乳類改訂版 (阿部 永, 監修), pp. 159-169. 東海大学出版会, 神奈川.
- 大畑純二. 2006. 島根県産陸棲哺乳類目録. 島根県立三瓶自然館研究報告4: 7-16.
- 島根県. 2014. 哺乳類. 改定しまねレッドデータブック2014 動物編, p. 34. 島根県自然環境課, 島根.



図1 ノレンコウモリの死体

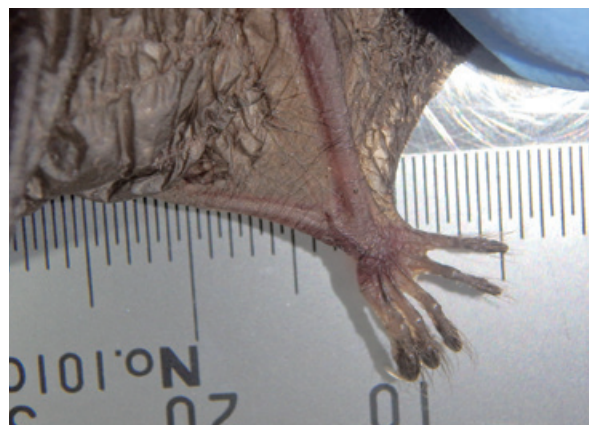


図3 後足と側膜



図2 耳介と耳珠部分の拡大



図4 尾膜後縁に列生した細毛